

第5回 奈良市「持続可能な観光」検討懇話会

開催日時	令和6年6月4日（火）午後2時から午後4時まで	
開催場所	奈良市役所北棟2階 202会議室	
参加者	青木 真郎 [(一社) サステナビリティ・コーディネーター協会] 澤柳 正子 [(株) リクルート ジャらんリサーチセンター] 下谷 幸司 [奈良市旅館・ホテル組合] 高橋 一 [(公社) 奈良市観光協会] 原田 隆太 [奈良ホテル] 二神 真美 [名城大学] 本保 芳明 [国連世界観光機関 (UNWTO) 駐日事務所] 峯川 郁朗 [奈良商工会議所]	
担当課	観光経済部観光戦略課	
開催形態	非公開	(非公開の理由) 情報公開条例第7条第3号
		具体的な非公開の理由等 企業の経営等に関わる情報もあることから、公にすることにより利益を害する可能性があるため。また、率直な意見交換が妨げられる可能性があるため。
意見を求める内容	持続可能な観光地の実現のための具体的な取組と成果指標について	
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・できるところから始めても良いが、ベースラインが低ければ、今後の伸びや成長につながるので、世界基準に照らして、今できていないところも入れ込んだ方が良い。 ・観光の重要性への理解ではなく、観光客の訪問に対する市民の理解や満足度を確保できる KPI 等を検討する必要がある。 ・アクセシビリティやユニバーサルサービス等の観点が不足している。今後の大きなマーケットになり得るとともに、市民にとって優しい環境づくりのためにも重要になるので、何らかの項目を加えること。 ・10年後に、シニアゾーンの人達が観光人材になるような取組ができないか。 ・情報共有や意見交換の音頭を誰が取るかを決め、県と市、市民も含めて問題点を共有して、解決のためにどのように取り組むのか話を進める必要がある。 ・周遊を促進するためには、他の市町村や県と連携して地域間交流を図り、観光ルートを作って、旅行者にきちんと説明することが大事。宿泊を増やすには、夜間遊べる地域を指定するのも一案。 ・ツアーは、GSTC のツアーオペレーター用の基準も参考しながら造成すべき。 ・現在のコンテンツで、奈良にしかないプログラムは歴史関係であり、社寺の理解や協力が不可欠なので、行政や観光協会が先頭に立って、その体制を築く必要がある。 ・ゼロカーボンに向けた取組は、旅館・ホテル組合等とも議論した上で、CO2 削減につながる少し高め目標と、実現可能な具体策を掲げること。 ・CO2 の測定とともに、事業者に向けて、何をすれば削減できるのかという情報を提供する研修等を実施すれば良い。 ・これからの2年半、このアクションプランにしっかりと取り組み、それを検証して、次の総合基本計画の5年間につなげること。 	

※50音順、敬称略